

第1回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第1回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第1回福祉用具専門相談員研究大会概要

- 【開催日】 令和元年6月17日（月）
- 【大会テーマ】 伝えよう！福祉用具のちからを
～地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割～
- 【会場】 東京国際フォーラム〔ホールD5〕東京都千代田区丸の内3-5-1
- 【主催】 第1回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会
- 【共催】 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会
- 【大会長】 岩元 文雄（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会理事長）
- 【副大会長】 小野木 孝二（一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長）
- 【大会概要】 記念講演1題・教育講演1題・口述／ポスター発表22題
- 【参加者数】 348名
- 【後援】 厚生労働省 東京都保健福祉局 一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会 公益社団法人関西シルバーサービス協会 一般社団法人こうしゅくゼロ推進協議会 国際医療福祉大学大学院 一般社団法人シルバーサービス振興会 一般社団法人全国デイ・ケア協会 全国福祉用具相談・研修機関協議会 公益社団法人全国老人保健施設協会 公益財団法人テクノエイド協会 特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会 一般社団法人日本介護支援専門員協会 公益社団法人日本介護福祉士会 公益社団法人日本義肢装具士協会 一般社団法人日本車椅子シーティング協会 一般財団法人日本車椅子シーティング財団 一般社団法人日本言語聴覚士協会 一般社団法人日本在宅介護協会 一般社団法人日本作業療法士協会 公益社団法人日本社会福祉士会 一般社団法人日本生活支援工学会 一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会 公益財団法人日本訪問看護財団 公益社団法人日本理学療法士協会 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 福祉用具プランナー研究ネットワーク *50音順

第1回福祉用具専門相談員研究大会開催報告

「伝えよう！福祉用具のちからを ～地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割～」

去る6月17日（月）、梅雨空の切れ目に青く澄み渡る快晴の中、第1回福祉用具専門相談員研究大会が開催されました。会場となった東京国際フォーラムには、北は北海道、南は沖縄まで日本全国より約350名の来場者が一堂に会し、盛会のうちに終えることができました。

当初予定しておりました会場定員を大きく上回るご来場をいただき、急遽、第2会場の増設に至る盛況ぶりで、ご来場の方々には急な会場変更をご案内させていただいた次第です。

岩元文雄大会長による「福祉用具のちからをご来場の皆さまだけではなく、広く全国の皆さまに伝えていきたい」との大会テーマに託した思いを込めた開会挨拶で研究大会の幕が開きました。

ご臨席を賜りましたご来賓の方々のご紹介につづき、介護保険制度の福祉用具事業を所管いただく厚生労働省老健局長大島一博様に来賓を代表して、福祉用具への期待と研究大会開催のご祝辞をいただきました。

続く、記念講演では、一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長の中村秀一様より、「平成から令和へ、福祉用具業界に期待すること」と題してご講演いただき、福祉用具業界が立ち向かうべき課題と期待の熱いエールを送っていただきました。

午後からの研究大会発表では、全国より集まった22名（組）の福祉用具専門相談員等が、東畠弘子座長（国際医療福祉大学大学院福祉支援工学分野教授）、金沢善智座長（株式会社バリオン代表取締役）、小林毅座長（学校法人敬心学園大学開設準備室）、東祐二座長（国立障害者リハビリテーションセンター研究所障害工学研究部部長）のもと、福祉用具活用事例、多職種連携、人材育成、地域貢献等の様々なテーマで発表を行いました。質疑応答では、会場に詰めかけた聴講者との専門的なやりとりをする場面があるなど、記念すべき第1回の研究大会にふさわしい発表となりました。

教育講演では、前述の東祐二様より「現場から発信する福祉用具の有効性について」と題して、今回の発表を受けて、次大会に向けての研究の視点や数値化に基づく発表が重要であることなど、福祉用具業界がこの研究大会から歩み出す新時代に向けた貴重なご講演をいただきました。

閉会式は、研究大会実行委員会の東畠委員長からご来場の皆様への感謝の言葉に続き、次大会の大会長を務められる小野木副大会長より、第2回大会に向けての決意と抱負に満ちた閉会の挨拶にて研究大会の幕を閉じました。

最後に、実行委員会より、本研究大会に関わってくださったすべての皆様に感謝を申し上げて、開催報告とさせていただきます。

第1回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【開会式】

11:00～11:30

開会挨拶 岩元文雄大会長



来賓挨拶 厚生労働省老健局長 大島一博氏



【記念講演】

11:30～12:10

講師 一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長 中村秀一氏
演題 「平成から令和へ、福祉用具業界に期待すること」



第1回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【ポスター発表】 セッション①

13:00～14:10

座長 国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野 教授 東島弘子氏



【ポスター発表】 セッション②

14:20～15:40

座長 株式会社バリオン代表取締役 金沢善智氏



第1回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表】

15:50～17:00

座長 学校法人敬心学園 大学開設準備室 小林毅氏

座長 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部部長 東祐二氏



【座長総括】

17:00～17:15



第1回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【座長総括】

17:00～17:15



【教育講演】

17:15～17:45

講師 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部部長 東祐二氏
演題 「現場から発信する福祉用具の有効性について」



【閉会式】

17:45～17:55

実行委員長挨拶 東畠弘子実行委員長



閉会挨拶 小野木孝二副大会長



第1回福祉用具専門相談員研究大会

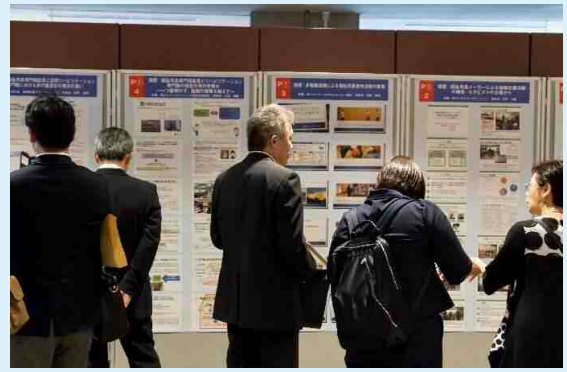
【設営】



【受付】



【ポスター掲示】



【第2会場】



第1回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

ポスター発表 セッション① 座長：東畠 弘子

No.	発表者	所属	演題
1	佐藤 隆之	(株)トーカイ横浜支店	車いすを見直した事で外出時の負担が軽減、ご本人・ご家族・サービス事業所スタッフの笑顔につながった事例
2	村田 沙織	(株)ランダルコーポレーション	福祉用具メーカーによる地域支援活動の報告-セラピストの立場から
3	宮部 裕貴	(株)マルベリーさわやかセンター帯広	多職種連携による福祉用具啓発活動の実施
4	久保 博隆	(株)カクイックスウィング鹿児島営業所	福祉用具専門相談員とリハビリテーション専門職の相互作用の考察 ～一つ屋根の下、職種の垣根を越えて～
5	宮野 貴幸	(株)仁済 訪問看護ステーション品川	福祉用具専門相談員と訪問リハビリテーション専門職における歩行器選定の視点の違い
6	船津 裕之	川村義肢(株)	デイサービスから福祉用具の活用への転換 ～デイサービスの廃業に伴う自宅での入浴支援へ～
7	南崎 友晴	(株)カクイックスウィング宮崎営業所	うち(家)に帰りたい・・・ ～住まいを支える福祉用具のちから～

ポスター発表 セッション② 座長：金沢 善智

No.	発表者	所属	演題
1	飯田 悠太	(株)フロンティア	身体寸法に適合した奥行き車いす用クッションを使用することの重要性について
2	佐藤 啓太	フランスベッド(株)	地域包括ケアシステムと住環境整備・福祉用具導入で住み慣れた住まいに
3	東浦 透	ケアウェル安心(株)	自立支援生活の一翼を担う福祉用具利用の有用性 ～福祉用具の選定提案とモニタリング、福祉用具利用の生活変化を評価す
4	水越 良行	(株)ヤマシタ	社内研修による人材育成とサービス品質の向上
5	三浦 晃嗣	(株)マルベリーさわやかセンター岩見沢	認知症による「徘徊」に対する見守りケア ～美唄市見守り声掛け模擬訓練を通して～
6	浅野 亘里	(株)マルベリーさわやかセンター苫小牧	事業所のサービス品質の向上 ～福祉用具展示研修会～
7	植野 雅晴	日本基準寝具(株)	進行性疾病患者の対応事例 ～福祉用具専門相談員の役割～
8	三谷 和久	(株)カクイックスウィング国分営業所	進行性疾患の方へのタイムリーな福祉用具選定と多職種連携の重要性について

口述発表 座長：小林 毅・東 祐二

No.	発表者	所属	演題
1	澤田 篤	(株)フロンティア	摂食咀嚼嚥下における車いすシーティングの評価とその影響 ～進行性核上性麻痺利用者の食事姿勢へのアプローチ～
2	谷 勇司	(株)マルベリーさわやかセンター札幌豊平	札幌市豊平区・南区多職種連携について ～地域に根差した社会貢献～
3	白木 一寛	パナソニックエイジフリー(株)	エイジフリー認知症リフォーム事例 ～不安な車いす生活を切り開く住宅改修～
4	佐藤 祥真	フォレスト福祉用具サービス(株)	出会いから5年を支援する暮らしの記録簿
5	明珍 直也	(株)ウィードメディカル	質の向上を目指して ～自信を持ってサービスを提供しよう～
6	入江 和幸	(株)トップコーポレーション	福祉用具の卒業を踏まえた自立支援の視点～福祉用具活用によりQOLが向上し、ADL向上への意欲も高まった症例を通して～
7	杉本 幸生	(株)トーカイ中野営業所	車いす座位における体圧分散性と面圧中心の位置がもたらす上肢の自動到達範囲への影響

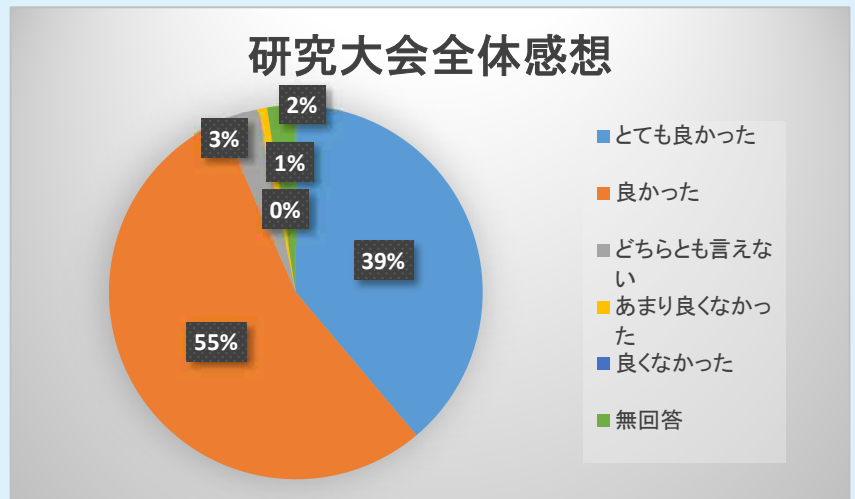
第1回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

アンケート概要

- 実施時期: 2019年6月25日(火)～7月5日(金)
- 調査方法: 自記述式アンケート用紙のFAX配布・回収
- 回収状況: 発送数269人／回収数121人／回収率45.0%

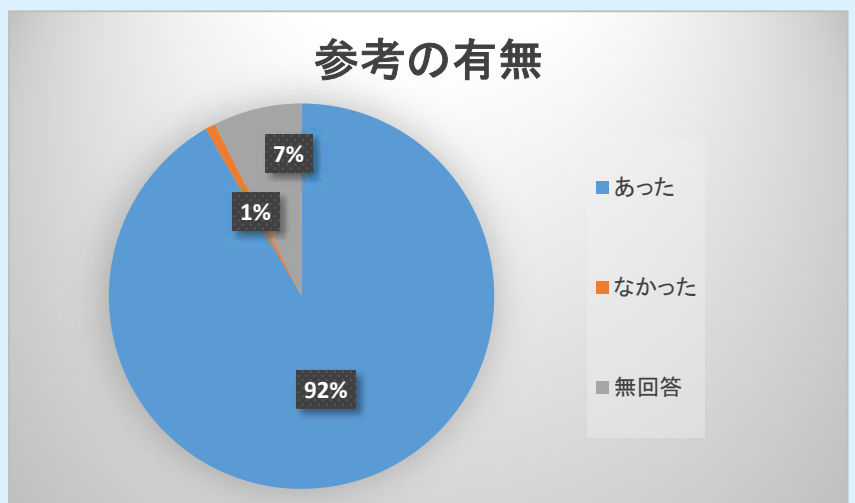
全体の感想をお願いします。

とても良かった	47
良かった	66
どちらとも言えない	4
あまり良くなかった	1
良くなかった	0
無回答	3
合計	121



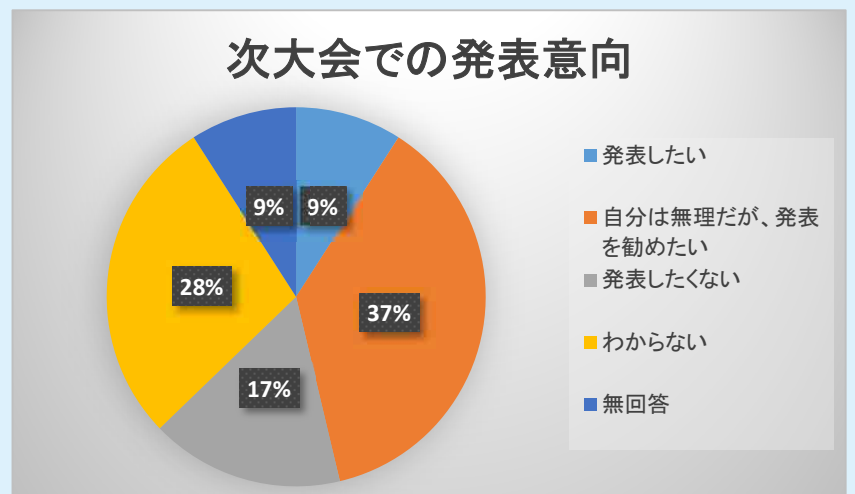
今大会に参加して参考になった点はありましたか？

あった	111
なかった	1
無回答	9
合計	121



来年はご自身が発表したいと思われましたか？

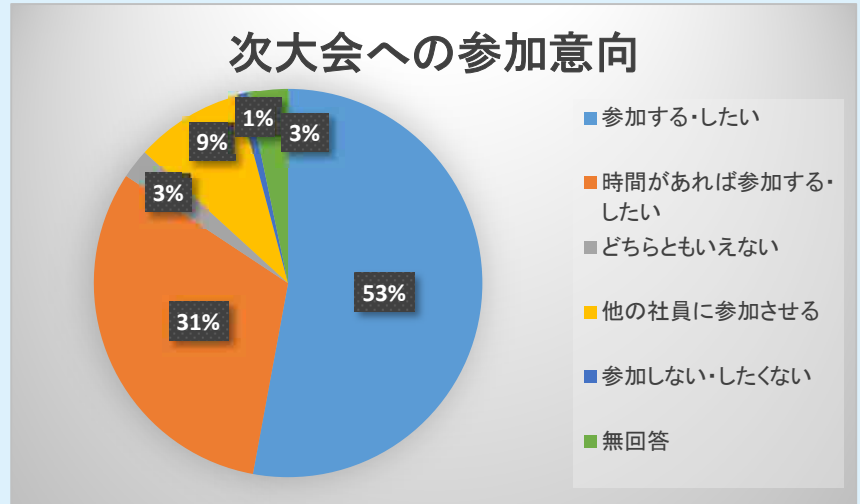
発表したい	11
自分は無理だが、発表を勧めたい	45
発表したくない	20
わからない	34
無回答	11
合計	121



第1回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

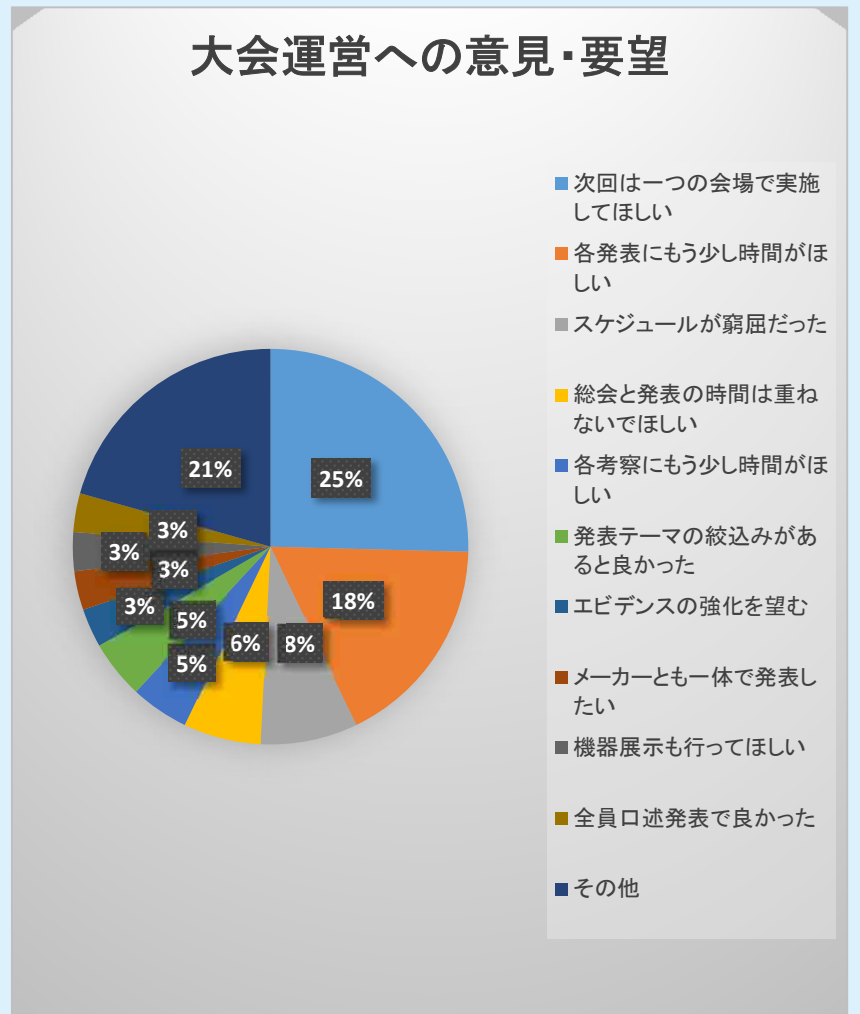
来年の参加についてあてはまるものに○をつけてください。

参加する・したい	64
時間があれば参加する・したい	38
どちらともいえない	3
他の社員に参加させる	11
参加しない・したくない	1
無回答	4
合計	121



大会の会場や運営等などについて、ご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

次回は一つの会場で実施してほしい	16
各発表にもう少し時間がほしい	11
スケジュールが窮屈だった	5
総会と発表の時間は重ねないでほしい	4
各考察にもう少し時間がほしい	3
発表テーマの絞込みがあると良かった	3
エビデンスの強化を望む	2
メーカーとも一体で発表したい	2
機器展示も行ってほしい	2
全員口述発表で良かった	2
その他	13



次大会告知：第2回福祉用具専門相談員研究大会

【大会テーマ】

福祉用具活用の更なる深化～根拠に基づいた福祉用具の活用～

【開催日】

令和2年6月16日（火）

【会場】

日本教育会館：一ツ橋ホール／東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

【大会長】

小野木 孝二：一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長

第1回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

大会長 岩元 文雄 (一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会理事長)
副大会長 小野木 孝二 (一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長)
大会顧問 幸田 正孝 (元 厚生省事務次官)
山内 繁 (元 国立障害者リハビリテーションセンター研究所長)

第1回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

委員長 東畠 弘子 (国際医療福祉大学大学院)
プログラム委員長 白澤 政和 (国際医療福祉大学大学院)
委員 千葉 博 (株式会社サカイ・ヘルスケアー)
横山 俊之 (株式会社トーカイ)
肥後 一也 (全国福祉用具専門相談員協会)
柳田 磨利子 (全国福祉用具専門相談員協会)
伊藤 広成 (日本福祉用具供給協会)
淡路 陽子 (日本福祉用具供給協会)
顧問 酒井 博人 (総合メディカル株式会社)

第1回福祉用具専門相談員研究大会 運営協力 (所属先 50音順)

株式会社カクイックスウィング	福岡 毅
株式会社カクイックスウィング	谷頭 正一
株式会社カクイックスウィング	古木 洋子
株式会社トーカイ	根岸 優太
株式会社トーカイ	丸山 健太
フランスベッド株式会社	荒木 弘史
フランスベッド株式会社	菅原 明広
株式会社ヤマシタ	鈴木 禎仁
株式会社ヤマシタ	千葉 裕一郎
株式会社ヤマシタ	田口 里紗
株式会社ライコム・コーポレーション	菅 潤平

用具
用談
社相
福専

初の研究大会開催へ

「専門職として認知高めたい」

福祉用具専門相談員の
専門性の向上を目指し、
自立支援に資する実践を
発表する「福祉用具専門
相談員研究大会」が6月
17日、東京都千代田区の
東京国際フォーラムで初
開催される。大会長は全
国福祉用具専門相談員協
会の岩元文雄理事長。発

表者と参加者の募集を開
始した。

6日、開催に向けて岩
元会長は抱負を語った。



岩元大会長

「福祉用具は介護保険
の費用総額で見ればわず
か6%だが、受給者は全
体の6割。少ないコスト
で多くの利用者の自立支
援に効果をあげている。
研究大会によってそれを
示し、専門相談員の専門
職としての社会的認知度
を高めたい」。

福祉用具専門相談員に
よるレンタルサービスの
品質向上や効率化、排泄
ケア、住環境整備などの

発表を予定。

全国福祉用具専門相談
員協会事務局03・54
18・7700。

今、福祉用具専門相談員に求められる役割とは

岩元 この度、初めて福祉用具専門相談員による研究大会を開催できる運びとなりました。現職の福祉用具専門相談員が一歩先へ職能を高めていく取組を互々に発表しあい、それまた次の挑戦へ繋げる。これまでも地域や事業所それぞれで取組めるところが、最終的に結ぶ取組をなりましたが、全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会による全国規模の研究大会を開く意義は非常に大きいと感じます。

△開催前夜が始まる20時半を迎え、そろそろという感じが、それと同時に福祉用具専門相談員の職能が向上していることは體感しております。ただ、直近の前夜も同じことを繰り返すこと、これまでに福祉用具専門相談員としての専門性を向上しなければならぬというメッセージがなされています。福祉用具専門相談員の職能向上の取組を内外と訴えるためにも、この研究大会をぜひとも成功させたいと願



全国福祉用具専門相談員協会

岩元 文雄 理事長

(いわもと・ふみお)氏
1988年、青山学院大学卒業。サラリーマン生活を経て、92年にカクワイバに専任職員(頭・カクワイックス)に入社。2003年、福祉用具部門を分社独立し、カクワイックスを設立。05年より同社代表取締役社長。13年に全国福祉用具専門相談員協会理事長に就任。日本福祉用具供給協会副理事長なども務める。

他職種連携は学びの場

6月17日に東京国際フォーラムで「第1回福祉用具専門相談員研究大会」が開催される。福祉用具専門相談員の全国規模での研究大会開催はこれが初めてとなる。大会テーマは「伝えよう！福祉用具の知られざる地域価値とノウハウにおける福祉用具の役割」。この研究大会開催にあたり、共催の全国福祉

用具専門相談員協会・公益文藝連盟代表 日本福祉用具供給協会・小野木孝二理事長、そして4月に就任した厚生労働省・健康福祉部部長、住友改修指導員に、求められる福祉用具専門相談員の役割について語っていただいた。

会が福祉用具専門相談員からの発信の場となり、多職種連携をさらに深める機会となることを期待を寄せています。

私の経験からいえば、駆け出しのころ、他職種の方から本当にたくさんのご教わりをしました。それだけの専門性からの視点、凄く良くなるのだということを学び、お互いに尊敬しつつ連携を深めました。

小野木 我々も福祉用具にとらまらず、例えばリハビリテーションあたり、療養もあって、そういった知識を他職種の方から学んでいかなければならないと感じます。この方の体験とあればこの福祉用具と根拠を持って説明できる。そんな福祉用具専門相談員を養成していかなければなりません。

長倉 多職種との連携は必ずしも計画がなくても重要になってくると思います。作成の負担もあつたとしても、充実した計画をすすめていく他職種からの信頼も高まっていくはず。実際の福祉用具サービス計画をみる、またその製品の説明などもしているものもあります。そうではなく、ぜひこの方だけではなく、福祉用具なのかというメッセージの部分が明確になるように記載していただくような資料を蓄えます。

小野木 同感です。資料を守りサービス計画案件における報告を付けられるような連携の第一歩はぜひほしいですね。こうした職能を高めたいことは、経験に勝るものはないでしょうが、それだけだと非常に時間がかかってしまいます。研究大会と現場の知恵やノウハウを共有することは、福祉用具専門相談員全体のレベルアップに繋がります。非常に意義深いと感じます。

い、連携を深めたいと思っています。

小野木 福祉用具専門相談員の好事例などを共有することで、福祉用具サービス全体のレベルアップに繋がります。第1回大会の発表を見た参加者は「今回は自分も事例を発表したい」と思っており、第2回、3回とどんどん盛り上がりつつあると感じます。

長倉 その一方で、福祉用具専門相談員としての悩みなど具体的な部分を含めていただくと、また切な気持ちになります。現場はなかなか言葉で語ることができず、抱えているのを感じます。同じ職能として、こうした面を共有することも非常に意義深いではないでしょうか。

現場に就く前は地域々々会議に参加していましたが、福祉用具の重要性を改めて認識する一方で、他職種のなかには福祉用具だけでなく、住環境への意識が高い方からなるものが多い印象です。この研究大

福祉用具専門相談員 専門性向上へ、研究大会初開催

福祉用具レンタル事業所の人員基準となつている「福祉用具専門相談員」。専門職としてレベルアップを図り、社会的認知を得ることを目指して活動している全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん、岩元文雄理事長）が17日、都内で初の研究大会を開催した。

参加者は当初の見込みの場。地域包括ケアシスを大きく上回る350人を構築する上で欠かす人。急ぎよ、会場を増やせないと、福祉用具の力としての開催となった。をせひ伝える機会となつてほしい」と話した。また、厚生労働省老健局・大島一博局長も公務の合間を縫って駆けつけ、「いま、最も重要課題である人材確保に向けた生産性向上を実現するためにも、福祉用具の活用に期待している。専門相談員

豊富な製品知識で 自立支援

地域ケア会議の一員にも



岩元理事長



の力量にかかっている」とエールを送った。研究発表演題は22題。トリーカイ横浜支店で21年、福祉用具の相談員として働いている佐藤隆之さんは、慢性腎不全で週3回透析通院をしている要介護5の利用者への関

「問題は自己負担。すでに限度額ぎりぎりまで介護保険を使っている。電動アシスト式に変わると倍の単価となってしまう。だが、実際にヘルパーに取扱い方法を教えると1人でもこれまで以上に安全に外出できることが分かってもらえる

た（佐藤さん）。電動アシストはケアマネジャー宅前が急坂のため、ヘルパーがかりで介助しても車いすごと転倒する事態が相次いだ。担当を引き継いだ佐藤さんは自宅を訪問して身体状況や環境などをアセスメントした結果、電動アシスト機能の付いた車いすであれば安全に急坂を降りけると判断し提案した。

「車いすやベッドを製造しているメーカーの方に、ユーザーである地域住民との接点が少ないことが気がかりだった。自主活動で介護予防セミナーを始めとする地域支援活動を続けることを発表したのは、埼玉県朝霞市の福祉用具メーカー・ランダルコーポレーションに勤める理学

た「一度も一緒に実践することで利用者にもケアマネジャーにも費用対効果を納得してもらえた」と話した。

「住民のニーズが分かり、福祉用具の利用に対するハードルも下がった。今年1月からは、地域ケア会議に福祉用具専門相談員として参加することができ、専門性の高い情報・意見交換ができることによりがいを感している」（村田さん）。福祉用具専門相談員が地域に出る前に、介護が必要になる前から福祉用具に触れる機会を広げれば、地域の健康寿命が延びることにもつながると話した。

療士の村田沙織さん。2018年5月に開始した当初は1人きりだったセミナーの参加者も回を重ねるごとに口コミで増え、そのうち地域包括支援センターの職員などのネットワークもできた。

訂正 6月21日号7面の福祉用具専門相談員研究大会は「福祉用具専門相談員研究大会実行委員会」の主催、共催は「全国福祉用具専門相談員協会」と「日本福祉用具供給協会」です。

※2019年6月28日7面

伝えよう福祉用具の力

専門相談員大会、初開催



あいさつする岩元大会長

「伝えよう」福祉用具のちからを」をテーマに、第1回福祉用具専門相談員研究大会が6月17日に開かれ、350人が参加した。地域包括ケアシステムを構築する上で欠かせない福祉用具サービスを担う相談員と福祉用具事業者が一堂に会し、日頃の取り組みを発表し、学び合う場として初めて開いた。

開会のあいさつで、岩元文雄大会長は「全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会が共同で実行委員会を組織した。用具貸与などの現場で培った力を発表で示してほしい。全国の人に福祉用具の力を伝える場にしたい」と語った。

来賓の大島一博・厚生労働省老健局長が

「厚労省は地域包括ケアの構築を進めている。地域の暮らしを充実し、支えるために欠かせないのが福祉用具の力だ。用具を生かすも殺すも相談員の力にかかっている。この研究大会を通じ、専門性を高めてほしい」と述べた。

記念講演では、中村秀一・医療介護福祉政策研究フォーラム理事

長が、30年間で2.6倍に社会保障費が増えた平成時代を振り返りつつ、令和時代の高齢者福祉のあり方を展望。「高齢者増を考えれば、2040年には国民1人当たりの医療・介護保険料は1.48倍になる。現在、8人に1人いる福祉・介護従事者も5人に1人まで増やさないとサービ

ス提供ができない」と述べた。

また、社会保障費を抑制し、深刻な人手不足に対応するためには、健康寿命の延伸と、介護ロボットや医療・介護サービスの効率化が必要だと指摘。「用具を活用した支援は施設だけでなく、在宅でも重要になる」と語った。(井口拓治)

福祉用具 専門相談員 研究大会初開催 成功裡に

「第一回福祉用具専門相談員研究大会が6月17日、都内で開催された。全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会の共催。およそ500人の参加者が全国から集い、会場は熱気に包まれた。

「手すりに色付け」など 現場の好事例を共有

大会長の全国福祉用具専門相談員協会・岩元文雄理事長は、開会のあいさつで「福祉用具専門相談員が日頃、現場で培った力を存分に発揮し、大会テーマである『福祉用具のちから』を発信してほしい」と呼びかけた。

福祉用具専門相談員による発表は口述発表とポスター発表を合わせて全22演題。現場での日々の実践を通し、さまざまな好事例や取り組みが披露された。

パナソニックエイジフリーの白木一貴さんは、認知症利用者への支援事



現場の好事例などの発表で参加者は学びを深めた

例を発表。介助者の息子と二人暮らしのAさん(92歳女性)は大腿部骨折から最重度の要介護5の判定を受けた。在宅生活の中で、最も負担だったのがトイレ動作。立ち上がりや脱衣の動作を安定させ、息子の介助負担を軽減するためにトイレ内と入口に手すりを設置した。しかし、息子さんが「手すりにつかまっ」と声掛けをしてもAさんにうまく伝わらない。息子さんが無理に手すりをつかませようとするとなぜ引く張りの二と口論になったり、間に合わず失禁したりするごともあり、かえって双方の負担が増えてしまったという。その後、Aさんはアルツハイマー型認知症を発症していきことがわかった。

白木さんが、「どうすればAさんに手すりを認知してもらえぬか」と悩んでいたところ、自社の介護施設で認知症の人が

れた息子さんからも「これからも母と一緒に暮らして続けていけそうだ」と喜ばれたという。

た。そこで、白木さんは手すりに赤と黄緑のテープを張り、息子さんに「赤を握って」「次は緑ね」などと簡単な声掛けをしてもらうことで、それまで3分かかっていたトイレの出入りが35秒まで短縮された。負担が軽減された。息子さんからも「これからも母と一緒に暮らして続けていけそうだ」と喜ばれたという。

香柱管狹窄症の後遺症も合わさって当初は歩行が困難だった。手術を繰り返して歩行が楽になった。Aさんは「歩行が楽になった」と喜ばれたという。

と、Bさんの意欲も高まり、趣味の絵画教室に歩いて通いたいという次の目標ができたという。ただし、絵画教室は500m以上離れているうえ、坂道もあったため、入江さんは「絵画教室へ行く」と目標を2段階に分けた。屋内移動が安定したころに、入江さんは「次は屋外に出てみませんか」と提案。Bさんの頑張りにより、屋外用歩行器で500mの距離を歩けるようになった。

念願の絵画教室に行けるようになったことをBさんは喜びながら、やはり歩いて通いたいという気持ちも高まり、趣味の絵画教室に歩いて通いたいという次の目標ができたという。ただし、絵画教室は500m以上離れているうえ、坂道もあったため、入江さんは「絵画教室へ行く」と目標を2段階に分けた。屋内移動が安定したころに、入江さんは「次は屋外に出てみませんか」と提案。Bさんの頑張りにより、屋外用歩行器で500mの距離を歩けるようになった。

「口述発表の座長を務めた元厚生労働省福祉用具・住宅改修指導官の小林毅氏は、日々の支援で「取り組みがどういったらいいか。常に意識を」

聞き手に伝わるか』を常に意識してほしい。例えば、数値を使うことも一つの手法だろう」と総括した。

次回は来年6月16日に、日本教育会館(東京都千代田区)で開催される。

伝えよう！福祉用具のちからを

第1回福祉用具専門相談員研究大会開催

初夏の東京有楽町東京国際フォーラム。涼やかな緑陰に人が集い、行き交う。第1回福祉用具専門相談員研究大会はDホールをメイン会場に、全国から多くの福祉用具専門相談員および福祉用具関連事業者が集って開催された。

地域包括ケアを推進する上ですでに大きな役割を果たしている「福祉用具専門相談員」だが、さらに自らのスキルアップを図り、福祉用具業界全体のボトルアップを図ることを意図して研究大会が開催された。実行委員長の国際医療福祉大学大学院東島弘子教授は「福祉用具のちからは、いつ、どこでも整備が可能という意味で、地域包括ケアを支えるうえで重要」と言い、そのためには利用者に合わせて機種を選定する福祉用具専門相談員の力が欠かせない。今大会は福祉用具専門相談員による成果発表を通じてお互いに学び合うとともに、福祉用具が持つポテンシャルの高さをアピールする機会ともなった。

大会は厚生労働省老健局長大島一博氏、大会

長である全国福祉用具専門相談員協会理事長岩元文雄氏の挨拶に続いて、医療介護福祉政策研究フォーラム理事長の中村秀一氏による記念講演で幕を開けた。日本の福祉政策を振り返り、テクノロジーの導入など福祉用具業界への期待が語られる。続いて15事業所がそれぞれの成果を発表。車椅子を見直したことが利用者等の笑顔につながった事例、セラピストによる地域支援活動報告、認知症の「徘徊」見守りケアの実践など、多彩な活動から福祉用具専門相談員の幅広い支援の成果を見ることができた。ロビーには発表した各事業所の成果がパネル展示されており、活発な交流の場となっている。

大会は約6時間に渡って行われ、国立障害者リハビリテーションセンター研究所障害工学研究部・部長の東祐二氏の教育講演で幕を閉じたが、来年も開催を予定している。「地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割」をサブテーマに開催された本大会だが、福祉用具への理解がさらに深まることが期待される。



第1回福祉用具専門相談員研究大会

／第1回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

第1回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会は6月17日（月）、東京国際フォーラムで、第1回福祉用具専門相談員研究大会を開催した。

初めてとなる今回の大会テーマは『伝えよう！福祉用具のちからを～地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割～』。

当日は15演題のポスター発表、7演題の口述発表、さらに教育講演や記念講演も行われ、会場スペースを増設する程の参加者が集い、会場は活気に溢れた。



問合せ先／実行委員会事務局 TEL:03-5418-7700 E-Mail:info@zfssk.com
